

岩崎清七 いほしやま 實業家。元治元年十一月十八日下野國生れ、昭和二十一年四月十一日歿（八六四一四四）。幼名清吉。號東海。少壯森鷗村の鷗村學舎の學ぶ。後年師の遺稿（「鷗村先生遺稿」昭和十年十一月二十一日刊、「鷗村先生遺稿續篇」十一年十一月二十五日刊）を編輯自版してある。明治十七年慶應義塾を卒業（アメリカ留學。滞在中片山潛と親交を有つた。二十二年歸朝後は家業に就き、のち深川と米問屋を營む。山十年福澤桃介等と白清紡績を創立して財界に入り、東京瓦斯社長、國光レーヨン社長等を歴任。〈財界無類の變り種〉の評がある。漢詩が能くし、文章にも長じた。

著書に『滿鮮雜錄』、『財界樂屋漫談』（昭和十四年五月五日富士書房）等。小川桑兵衛著『日本の興亡と岩崎清七翁』（昭和二十四年二月十日紅龍書房）がある。

